

ナナメな奴ら

人物

柿坂美玲

藤田奏美

佐野美希

山本智美

安西圭介

御猿壁三郎

1
居酒屋
安吉・店内

カウンター席、テーブル席3つがある店内。

カウンター内に安西圭介が片付けをしている。

カウンター席には山本智美が酔いつぶれて突っ伏している。

テーブル席から空いたお皿などを下げていく佐野美希。

テーブル1に座って残りの飲み物を飲んでいる

柿坂美玲。

テーブル2に座る藤田奏美はスマホゲームをしている。

テーブル3には、背中を向けてパソコンに向き合

う御猿壁三郎がキーボードを叩いている。

美希 店長、ラストオーダー無しです。

圭介 了解。美希ちゃん、あと大丈夫だから、上がって。

美希 いいんですか？ 満席なのに。

圭介 満席つつても常連さんばかりだから平気だよ。

美玲 美希ちゃん、圭介はバイト代けちりたいんだよ。わかってや

んなよ、ね、圭介。

圭介 美玲さん、いい加減圭介って呼ぶの止めてもらえませんか。

何か特別な関係があるみたいじゃないですか。

美玲 あら、圭介は何も無いって言うの？ 美希ちゃんもそう思

う？

美希 特に興味無いので。

圭介 美希ちゃん！

奏美 やったー！ 最高得点み！

美玲 あんた、よくウーロン茶一杯だけで5時間も粘れるよね。

奏美 そう言う美玲さんは、つまみも頼まずよく飲めますり。

美玲 放つといてよ、ダイエット中なの、あんたにはわかんないで

しょうが。

奏美

わかりまちす、ダイエットくらい。

美玲

そう言う事を言ってるんじゃないの。それに、その変な言葉

遣いはやめてくれないかな？

奏美

変じゃないんですり、可愛いんですり！

圭介

まあまあ、美玲さん。奏美ちゃんも。

美希

奏美ちゃん、何点いったの、ツルツル。

奏美

一億点だり。(美希に見せる)

智美

(むくりと起きる) 店長、おかわり。

圭介

智美さん、もうラスト取っちゃって。

智美

取ってないでしょ、おかわり。

圭介

智美さん、寝ちやってて。

美玲

おばさん、飲みすぎだよ、もう帰んなよ。

智美

何で30過ぎたおばさんにおばさんって言われなきやなん

ないの？ あんたもおばさんじゃん！

美玲

はあ？ 30過ぎてるって、見た目若いんですけど私！ あ

智美

んた、ただの酔っぱらいのおばさんじゃん。

酷い……(泣く)

美玲
美希

ああ、またすぐ泣く。
始まった……。

美玲

私は柿坂美玲、大手電機メーカーの総務課に勤めるOL。趣味は一人飲みかな。と言ってもここ以外では飲まないんだけどね。で、この常連と訳わかんない話してストレス発散してる感じ。あと、今のところ彼氏無し、誰か紹介してくれたら有り難いかな。

**それぞれの独白。
明かりが変化、ピン。**

奏美

私、藤田奏美、なかなか就職が見つかんなくてツルツルってゲームばかりやってんの。え？ 楽しいのかって？ そりゃあ……。人生色々あって、ここの常連になる事にしてやったんり。え、言葉遣いの変？ よく言われりけど、気にしないり。だって、そんな私って可愛いでしょ？

明かり変化。

明かり変化。

智美

何見てんのよ！ 毎日飲んだくれてますよ。主婦ですが、何か？ あ、名前は山本智美、別に旦那と仲が悪いって訳じゃないんだけど、家に居ると落ち着かなくて。息が詰まるっていうか……。で、気付いたらここの常連になってたって訳。

明かり変化。

美希

ここ、居酒屋安吉のアルバイトしてます。佐野美希と言います。大学行ってません、目指す事があってフリーターしてます。なかなか夢は叶いそうにないのも、私にはチャンスが訪れないからなんです。誰か、私にチャンスをください！

明かり変化。

圭介

居酒屋安吉の雇われ店長の安西圭介。趣味は働く事かな。ま

あ、この変な常連さんと会話してるのも大好きな時間なんだけど……。料理も作るの大好き。

明かり変化。

圭介

ああ、それから、あそこでパソコンしてるおじさん、喋らないで代わりに紹介します。自称、作家。お芝居か何かの脚本書いてるらしいので劇作家かな。名前は、御猿壁三郎。超無口なへんてこなおじさん。特技は速読！

三郎

そうだねえ。

**三郎、立ち上がる。
元の明かりに戻ると、トイレに行こうとした三郎
倒れる。**

美希

先生？

圭介

先生？

三郎

(苦し気に) そうだねえ……。

美玲
奏美
美玲
奏美
美玲

やばいんじゃない？ 救急車呼べば？

(すでに電話している) 病人だし。救急車お願いり。

何言ってるのかわかんないよ。

(電話を切り) すぐ来るり。

嘘。

救急車の音。

圭介

(三郎を起こして) 先生、救急車来ました。

痛そうに起き上がり、圭介に連れられて行く三郎。
袖に入ったら、直ぐにダッシュでパソコンを取っ
て去って行く三郎。
その時に台本を落としていく。

美玲
智美
美希
奏美

何、この強引な展開。

(少し酔っている) なんか落としたよ。

(台本を拾い上げる) 新作の台本っぽいですね。

(いつの間にかゲームをしている) 面白いみ？

美玲 奏美 美玲 智美 美希 美玲 奏美 美希 智美 美玲 美希 美玲 美玲

だから、その言葉遣いやめなつて。
個性だし、可愛いんだら。

あんた、本気でそう思う？

読んでよ。

はい。いや、だ、駄目ですつて。

いいじゃん、いいじゃん。

(奏美に) 人の話は聞きなさい。

(見ようとして) いやいや、ダメダメダメ！

(甘えた口調で) 早く読んで。

甘えたって読みません！

読むくらい良いんじゃないの？

ダメです！ 作家さんにとつて命よりも大切なものだった
りするんです。万が一でも、脚本のアイデアが盗まれたり
もしたら……、あー！ 考えただけでも恐ろしいです。

そんなもんなの？

圭介、帰って来る。

圭介 御猿壁三郎先生、無事に運ばれてった。ん？ どうしたの？

美希、台本を圭介に見せる。

圭介 真っ直ぐ愛して……。御猿壁三郎先生の脚本？ 新作？

美希から台本を奪い取り読む。

全員 あ！

オープニングの曲で、ダンスつぽく全員が台本を
読み進めるようなパフォーマンス。

全員 ……（沈黙）

あのみさ……。

美希 （遮るように）ダメ！

奏美 これは……。

美希 （遮るように）静かに！

美玲 くだらない……。

美希　はつきり言っちゃった……。
圭介　見なかった事にしませんか。
智美　あんたが見たんではよ？
圭介　いやいや、皆さんも……。
美希　店長、未発表の作品を許可なく見るのは犯罪です。今ならまだ自首出来ます。
圭介　いやいや、罪にはならないでしょ？
奏美　別に言わなかったらわかんないっち。
美玲　だから、その言葉遣い止めて。
圭介　明日、先生に届けてくるよ。
智美　そんなくだらない台本を？
圭介　くだらなくないですって。
美玲　本当に？
圭介　はい！
美玲　言い切ったね店長、本当にくだらなくないって、心から言える？　神に誓える？
圭介　そ、そんな、誓うとか……。
美希　店長、正直に答えてください！

圭介 奏美 圭介 奏美 智美 美玲 圭介 奏美 美希 圭介 美玲 奏美 智美

だ、だから、僕には評価なんて……。

店ち！

店ちって何ですか、東京ラブストーリーのかんちみたいに言わないでください！

東京ラブストライク？ (BGMが入る) 知らなーり。

知らないんだ……。

何、訳わかんない事言ってるの。そんな事より、このくだらない台本、何かムカつかない？

先生の世界観ですよ。ムカつかないでください。

店ちは黙ってて。燃やす？

奏美ちゃん！

書き直すのは如何でしょう？

ちよ、ちよつと、美希ちゃん、何言い出すの？

面白そうじゃん。燃やすより良いかも。

乗ったし！

私も作家になれるかしら。

美希、捌ける。

圭介

皆さん、何言ってるんですか！ ダメですって。御猿壁先生が精魂込めて書き上げた……。

美希、パソコン持って出てくる。

美希

私、打ち変えます！

圭介

美希ちゃん？ それ、御猿壁三郎先生のパソコンじゃあ。ど

美玲

つから持ってきたの？

圭介

じゃあ、やっちゃいますか！

止めてくれー！

暗転、BGMで場転

2 台本内のセット（割前）

テーブルが舞台前方の端に一つ、その上にパソコン、椅子は一つ。

美希が座る。

割幕をカーテンのように開ける美玲。
古いアパートの一室の窓辺の設定。

美玲

あの人を待って、もう3年……。本当に帰って来てくれるのかしら。私の愛情も冬の寒さで凍り付きそうだわ。

カーテンを閉めようとして、何かに気付く。

美玲

あなた？（確認するように外を見る）あの人だわ！

黄色いハンカチを振りながら

美玲

あなた！ 私は元気です！ あなたの帰りを首を細くして待っていたのよ！

美希

長くでしょ。

美玲

私の愛情は真冬の今でも熱く燃え上がっているの。

美希

さつき、凍えそうだって……。

美玲

うるさいカラスは放っておいて、早く上がってらっしゃいな。早く早く。

黄色いハンカチを振り続けている。

美希 一体、どれくらい遠くにいるんだろう。

ハンカチを振り続ける美玲を無視して割を閉める美希。

美希

どこかで見た事あるなあ。よくありがちなストーリーだから使いやすいのかもね。次のシーンはと……。

割が開いていく。

おしゃれなカフェの設定だが、ソファが一つ置いてある。

ソファには、智美と圭介。

パソコン前には美希が座っている。

智美

何ておしゃれなカフェなの。

圭介　　こういう場所があなたに相応しい。
智美　　まあ、圭介さんだったら……。それで、お話って？
圭介　　智美たん……、僕と駆け落ちしよう。
智美　　ダメよ、ダメダメ。ダメだわ圭介さん。
圭介　　じゃあ、決まりって事だね。
智美　　圭介さんだったら……。
圭介　　智美たん。

美玲、出てくる。

美玲　　ストップ！

**圭介、智美はストップ。
割を閉める美玲。**

美玲　　先ずは、こういう訳のわからないダジャレと言うか、イラつと
とするフレーズを全消去よ。それと、誰かからパクったネタ
のようなどころも。

美希

結構、パクってるネタ、多いですよ。(パソコンを見て) そうなると9割方書き換えになりますね。

割が開くと、奏美がソファでゲームをしている。

奏美

ここはおしやれな……(キヨロキヨロして)庭。……あの人、本当に迎えに来てくれるのかしら。この寒空の下、あの人が来るまでに、私は凍えてしまうの……。

美玲

おい！

スマホを奪って袖へ投げつける。

奏美

おお、愛しのツル様、私を置いて行かないで！

圭介がやって来る。

圭介
奏美

お嬢様！
そなたは、どなた？

圭介 カメ王子の使いのものでござる。王子は……、王子は……。
奏美 みなまで言わなくてもよい。そなたは、それを伝えるに？
圭介 左様でござる。
奏美 ツル様が……。
圭介 カメ王子です。
奏美 みなまで言わなくてもよい。
圭介 では、私はこれにて失礼司ります。
奏美 さようなら、使いのメンズ！

圭介、去る。

美玲 ストップ。時代設定、無茶苦茶……。
智美 言葉遣いもおかしい……。
美希 どうします？ 続き見ます？

奏美、ハツとする。

美玲 もういい、見る価値無し。

智美

吐きそうだわ。

割を閉める美玲。

美玲

こんなのが300ページちよいだよ、時間に換算したらどれくらいなの？

美希

さつき調べたんですが、御猿壁先生の台本は1ページ約1分みたいですよ。

智美

さ、三百分？ って、何時間？
5時間だよ。計算も出来ないの？

智美

主婦は計算しない動物なの。
普通、小学生でもわかるよ。

美希

5時間のお芝居って、長いの？
長過ぎるよ。大抵、2、3時間ってとこでしょ？

美玲

ですね。今回、御猿壁先生、相当悩んでみたいですよ。
そうなの？

美希

お店でもため息ばかりついてましたよ。

智美

でも、あの人、今までこんな作品ばかり上演してたの？

美希 さあ、どうなんでしょうね。劇団員の人は頑張ってやってる

みたいですが……。

美玲 劇団？ 劇団の脚本家なんだ。

智美 凄い事なの？

美玲 全然凄くないよ。この脚本じゃあ、売れるとも思えないし。

美希 意外とお客は付いてるそうですよ。劇団の人が言っていました。

美玲 美希ちゃん、劇団員の事、知ってるの？

美希 知っているとどうか、たまに出前持って行きますから。

智美 どこへ？

美希 稽古場です。

美玲 そうなの？ で、その劇団……。

圭介が買い物袋を下げて入って来る。

圭介 どうですか、進んできます？

美希 やっぱり内容があほみたいなので、殆ど書き直す事になりそ

うです。

圭介 美希ちゃん、そういう言い方……。

美玲
智美
美玲
圭介

まず最初に決めなきやいけないのは、コンセプトだよ。
差し込みはこちら。
コンセプトじゃねえよ！
漫才みたいですね。

ゲームをしながら奏美がやって来る。

美希
奏美
美希
智美
美玲
奏美
美玲
圭介
美玲

歩きスマホはダメですよ。
何で？
呪われますよ。
嘘、そうなの？ 二度としないようにしますわ。
やっとなんかい！
私も止めよう。後ろを歩く人に迷惑だもんみ。
わかっとなんかい！
美玲さん、突っ込みが様になってきましたよ、関西弁っぽいし。
やかましいわ！ とにかく、コンセプトだよコンセプト。

みんな少し引く。

美玲 あーあ、大怪我した！ もうやだ！

去ろうとする美玲を止める美希。

圭介 美玲さんは、どんな台本に書き換えたんですか？

美玲 この原作は、とにかく女心がわかっちゃいない。あのおっさん、絶対童貞だよ。

智美 私も思った。童貞、童貞、絶対童貞。

圭介 連呼しない！

奏美 童貞って？

圭介 聞かない！

美希 童貞とは……。

圭介 教えない！ スマホで調べなさい！

奏美 その手があったち。(調べ出す)

圭介 今じゃないでしょ！ で、どういう風に女心がわかってないんですか？

美玲 御猿の勝手な妄想。

圭介 御猿って、御猿壁先生に失礼ですよ。
美玲 良いの、あんなマスターベーション野郎は御猿で良いの。
圭介 散々だな……。
美玲 男と女の人間ドラマが描かれていない。
美希 美玲さん、何か凄いです。
圭介 なるほど、そう言われればそうだ。
智美 さあ、酔いが冷めたところで、書きましようよ。
美玲 コンセプト。テーマは何にするの？
奏美 ゲームの攻略台本は？
圭介 無茶です。
智美 人と動物の物語とかはだめかしら？
圭介 人だけにしませんか？
美希 アルバイトが億万長者になる話。
圭介 夢はあるけど……。
美玲 あんた達、発想が面白くないんだよね。
智美 何よ、偉そうに。
奏美 はあ……（ゲームをしている）
美希 私のアイデアは良くないですか？

美玲
美希
圭介

正直詰まんない。
皆さんでアイデアを膨らませてくださいよ！
まあ、皆さん、ちよつと落ち着きましようよ。

圭介

皆、無言でバラバラに座ったり。

奏美

えつと……。じゃあ、こうしましょう。実際の物語は、時代背景もへつたくれもありません。なので、時代はみなさんがわかる現代、現在の世の中にしましょう。
賛成！ 昔の時代だったらわかんないし。

美希

（パソコン前に座り）賛成です。

智美

テーマは友達にしない？

美玲

何で？

智美

私、友達居ないんで。

奏美

ドクターＹみたい。

美玲

友達居ないんだ。

智美

一人も居ませんのよ。（高笑い）

圭介

じゃあ、友達の居ない主人公に友達が出来る話、で良いですか？

美玲

圭介

奏美

智美

奏美

智美

美玲

奏美

美希

圭介

本気で言ってる？

……。サクセスストーリーが良いです！

簡単なところで、台本を作るお話にすれば？ 出来上がる頃に皆友達になってればいいんですよ？

賛成！ ゲームちゃん、良い事言いますわね。

奏美だよ、かなみ。

あら、ごめんなさい。

変な言葉遣いしないの？

面倒だから普通に話す。可愛くなさそうだし。

それがいいです。じゃあ、店長、今日はもう遅いので、皆さんには帰ってもらいましょうよ。私の人件費が上がるだけなので。

あ！ さっさと帰ってください！

皆去って行く。

明かり変化。

3 帰り道

美玲と智美が歩いている。

美玲

どこに住んでるんです？

智美

学校の裏手の公園。

美玲

そうなんだ。子供さんは？

智美

居ない。って言うか出来ないの。

美玲

変な事、聞いちゃった。ごめんなさい。

智美

いいのよ。私ね、子供が産めない体なの。子宮奇形っていう

美玲

病気でね。子宮の形が普通の人とは違うんだって。

智美

手術で治らないの？

美玲

妊娠するまでにわかってれば、もしかしたら治っていたのか

智美

もね。時、すでに遅しだよ。流産しちゃったんだ、一度。

美玲

そう……。

智美

あ、ごめんね、こんな話して。何言ってるんだろ。

美玲

いいじゃん、何でも聞くよ。

智美

安吉暦何年？

美玲

3年くらいかな。智美さんは？

智美

私は、6年くらいになるかな。圭介君の前の前の店長知ってるし。でも、こんな事人に話したの初めて。実は話すの苦手なの。最初なんか、安吉に入るのに随分時間が掛ったの。

美玲

どれくらい？

智美

一週間くらいかな。

美玲

は？ 一週間？

智美

そう、うろろうろしてたの。で、その時の店長に妖しい人がうろろうろしてるって電話が入ったみたいで、怖い顔してお店から出て来て……。びっくりして泣いちゃって。

美玲

何で安吉だったの？

智美

暇そうなお店だったから、静かに飲めるかなって。

美玲

旦那さんは？

智美

優しいよ。(涙ぐむ) 腫れ物に触るみたいに……。

美玲

……私、バリバリの営業マン、営業ウーマンだったの。でもワンミスで、クビは免れたんだけど、総務に回されて……。

智美

理由、聞いて良い？

美玲

その時の部長に、今のお前があるのは俺のお陰だろうって。

智美

うん。

美玲 体、要求されちゃって、引っ叩いちゃって。

智美 セクハラじゃないの？

美玲 訴えても無理な体質の会社なの。でもいつか仕返ししてやるって、いまだに辞めずに居座ってやってるの。

智美 美玲さんは強いよね。

美玲 強くなんかないです。女だから、なめられたくないんです。

智美 御猿壁先生の台本、女を馬鹿にしてるわよね。

美玲 確かに……。でもあの先生なりに、何か伝えたい事があるんじゃないかって。美希ちゃんが書き直そうって言った時、何か引っ掛かったの。

智美 引っ掛かった？

美玲 そう、こう何て言うか、えーと……。作るって言うか……。

智美 えーと、作品として形に残せる？

美玲 わかってるじゃん。私達にしかないものを形にしてみたくなっただの。

智美 やり手の営業ウーマン復活だね。

美玲 智美さんって、案外いい人だね。

智美 案外って失礼ね。あなたは意外と素敵だわ。

美玲 意外って……。 (二人笑う)

智美 何か、一生分話した気分。(前に向かって大声で) 女を馬鹿

にするなー!

美玲 智美さん……。

智美 (大声で) 今は楽しいぞー! 美玲さんも。

美玲 (大声で) 覚えてろー! 幸せになつてやる!

智美 その調子。

美玲 (大声で) 悔しいけど、負けないぞー!

智美 (大声で) 負けないぞー!

美玲、智美笑う。

美玲、智美に耳打ちする。

美玲 いくよ。(大声で) 女ですが!

智美 それが何か?

「うるせえぞー!」

美玲

逃げよう！

割を開ける圭介。

圭介

こっちです！

美玲

どこから出てくるんだよ！

圭介

みんなも居ますから。早く！

智美

私達の会話、聞こえてたの？

奏美

早く！ ハリーアップ！

美玲、智美、笑いながら割の中へ。

割を閉める圭介。

暗転

4 美希の部屋（時間経過）

テーブルで黙々とパソコンを打つ美希。
時計の音が大きくなり、明かりが消えていく。

5 居酒屋安吉・店内

其々、いつもの定位置に座っている。

御猿壁の定位置には一輪挿しの花。

美希 (御猿壁の花に手を合わせる) いい人だったのに。

圭介 死んでない! 縁起悪い事しない!

美希 先生の台本の事です。先生の亡骸です。

圭介 だから、死んでないって! だいたい、何でお花置いてるの?

みんなを見渡し。

美希 えー、私なりに皆さんの意見を反映して、プロットを書いて

きました。

智美 プロットって?

美希 えっと、あらすじの事です。ストーリー全体のあらすじです

ね。で、先生の台本では不倫とか駆け落ちとか、こう何て言

うか男の人が一度はやってみたい恋愛特集みたいなふざけた物語になってるんですが、こちらは、我がヤスキチームは、爽やかな……。

美玲　もしかして、安吉だからヤスキチーム？

智美　安っぽいわねえ。

奏美　いいじゃん、簡単な名前です。

美希　そうです、安っぽく聞こえたほうがいいかなと思ひまして。

圭介　言うよね……。

で、我がヤスキチームでは、爽やかな恋愛の台本を作り上げていく女四人と犬一匹のお話にしてみました！

みんな拍手する。

圭介　犬？

美希　あくまで仮のストーリーです、途中で内容が変わっても良いんです。

智美　で、今日は何するの？

美希　全部をみんなて書くのは難しいので、シーン毎に振り分けて

宿題として持って帰ってもらい、其々で書いてもらおうと思
ってます。

美玲 そんな事出来るの？

美希 実は、脚本書くの興味があって、少しかじってるんです。

美玲 そうだったんだ。

奏美 難しい？

美希 適当でいいです。私がまとめますから。

圭介 犬って？

美希 今日は、そのシーンの振り分けをします。

美玲 なるほど……。

美希 今見てもらっているプリントの項目のどれが担当したいで

すか？

奏美 どれでもいいよ。

美希 8項目あるので、一人2つです。

圭介 質問！

美希 はい、圭介くん、どうぞ。

圭介 犬は、誰がやるのでしょうか？

美希 わかりきった事を聞かないで欲しいものです。

智美 選んでいいの？
美希 どうぞどうぞ。

美玲 7と8が一番盛り上がる場所だね？ これがいい。

智美 美玲さん、そこは私が考えるわ。経験豊かな方が宜しいかと。
美玲 あんた、経験豊かじゃないでしょ？ 違うものが豊なんじゃない？

智美 何よ、違うものって！

美玲 ここは私！

智美 私よ！

美希 二人共、止めてください！ じゃあ、じゃんけんで決めましょう。勝った方が7、負けた方が8。はい、ぐっばでほい！

美玲パー、智美グー。

美希 美玲さんの勝ち！

圭介 ぐっばって……。

智美 仕方ないわ、譲ります。じゃあ、この3を選ばせて。女の喧嘩のシーン。

美希 はい、智美さんは、3と8で決定です。奏美ちゃんは？
奏美 続きがいいから、5と6。
美希 美玲さん、いいですか？
美玲 いいよ。じゃあ、私は……4で。
美希 はい、決まりました。美玲さん、4と7、智美さん、3と8、
奏美ちゃん、5と6、私が1と2を担当します！
圭介 あのう……。
美希 店長は、決起集会の準備をお願いします！ それに店長、私
たちは脚本を書くだけなので、演じません。だから、誰も犬
はやりませんので。
圭介 あ、そうか。良かった。
美希 さあ、みなさん打ち合わせしましょう！

打ち合わせの準備を始める5人。
割閉め、転換

6 居酒屋 安吉・店内

皆書類を持って椅子に座っている。

美玲

やっぱり一番盛り上がる起承転結の転の部分と言う事なのですが、聞くところによると、このパートは主人公の一番の心情変化を見せるという事で、あつと驚くとかそういうものではないみたいです。

美希

よく勉強されてますね。その通りです。その心情変化をどう見せるかがポイントになると思います。簡単に言うくと、起承転結の起は人物と時代背景の紹介、そこから物語が始まる切っ掛けが起こるポイントとなる部分です。承は切っ掛けから始まる色んな事件の連鎖。わらしべ長者みたいな感じ。で、長者になる瞬間が一番盛り上がる転という訳。

奏美

結は？

美玲

結は、転の余韻みたいなものでしょ？

美希

まあ、そんな感じです。きっちり結果を見せて終わるか、これからこんな風になるんだろかなみたいな、お客様に想像を持って帰ってもらうか、二通りあります。

智美

専門的過ぎてわかんないんですけど……。

奏美 美希 美玲 智美 美玲 奏美 美玲 智美 美玲 奏美 美玲 智美 美玲 美希 智美 美玲 美希 智美 美玲 美希 智美 美玲

確かに。

難しく考えないでいいんです、自由に思った事を考えて来て
ください。皆さんが出してくれた意見を私がまとめるので。
そうだよ。たまたま私が勉強しただけだから、形にとらわれ
ない方がいいよ。好きな事、言えなくなるし。

美玲さん、なんだか大人になった？

大人です！

質問ですが、主人公のモデルって誰？

私。

は？ 私でしょ？

どっちでもいいけど私は嫌だな。

私！

私よ！

二人共、止めてください！ 私でもいいんですよ！

美希ちゃん！ 演じないんですしよ？

小娘は引っ込んで。

バイトの分際で何言ってるのかしら。

バイトとか関係ないと思いますが。

奏美 あーあ、始まった。店長、何とかしてよね。

圭介 何とかしてよねって言われても……。

智美 面白くないから帰りますわ。

美玲 ちよつと、逃げんの？ そうやって直ぐに現実から目を背けるから、いつまでたってもぼつとしないんでしょ。そりや前に進めない訳だね。

智美 ぬけぬけとよくそんな事言えるわね。恥を知らないさい！

圭介 ちよつと、皆さん！ じゃあ、恋愛ものとかじゃなくて、皆

で、難き脚本家を唸らせる脚本に書き換えるってお話にしてはいかがでしょうか？ だったら、皆が主人公でいけるんじゃないでしょうか？ 今、俺、良い事言ったなあ。

しばし沈黙……。

美希 えーと、そういう事でよろしいでしょうか？

美玲 恋愛ものより良いかもね。

智美 良いと思いますわ。

奏美 御意！

圭介 美希 美玲 美希 美玲 美玲 美玲 美玲 美玲 美玲 美玲 美玲 美玲 美玲 美玲

良かった……。

では、群像劇っぽくなりますが、皆さんが主人公のモデルで脚本を書き換えていく物語という設定で進めます。

心情変化はどうするんだろう？

今の私達のように、なかなか意見がまとまらない。どんどん書き換えていくけどまとまらない。喧嘩があつて、わかりあい、またぶち当たり、其々を理解していき、最終的には、心は一つになっていっていいのはいかげしうか？

ベタ過ぎませんか？

まあ、わかり易いつて言えばわかり易いよね。

御意！

あんた本当にやる気あんの？

あるよ。

あ、それ知ってる！ キム兄が出てたへローのバーテンさんだよ？

違います。キムタクのヒーローです。特に文字らなくてもいいんじゃないですか？

うん、たぶん。

智美 ……恥ずかしい！ ちゃんと普通に言えばよかった。あー、

恥ずかし！

圭介 拗ねないでください。

智美 ふんっ。気を取り直すわ。

美玲 自分で言う人初めて見た。

智美 もう、いいから進めましょう！

音楽と共に、割閉め。

7 帰り道

美玲が歩いて来て、ベンチに座り、スマホを操作している。

美玲、大きなため息

圭介、やって来て美玲に気付く

圭介 あれ、どうしたんですか、こんなところで。
美玲 いや、別に。

圭介 何か、皆さん楽しそうですね。
美玲 そうだね。
圭介 この調子で、お店も活気付けばいいんだけど。
美玲 活気付くのかなあ。
圭介 売上上げないとクビですから。
美玲 頑張れ、応援してるよ。
圭介 ありがとうございます。
美玲 ……。
圭介 楽しくなさそうですね。
美玲 そんな事ないよ、楽しいよ。
圭介 そのテンションで？
美玲 テンションは関係ないでしょ？
圭介 何かあったら、話してくださいね。
美玲 あんたに？
圭介 そんな、切ない事言わないでくださいよ！
美玲 相変わらず、明るいね、圭介は。
圭介 僕だって悩むこともあるんですよ。
美玲 嘘ばっか。

圭介 バレましたか。

美玲 嘘つき。

圭介 嘘つきって、これは嘘ではなく冗談です。

美玲 冗談ねえ。

圭介 で、どんな感じで書き直しは進んで……。

美玲 嘘と冗談の境目ってあるの？

圭介 はい？

美玲 嘘ってさあ、一度吐いちやうと吐き通さないといけなくなる

圭介 じゃん。

圭介 そうですかねえ。

美玲 そうだよ。

圭介 何でそんな事？

美玲 私、嘘ばっか吐いてるの。

圭介 マジですか？

美玲 嘘で固めた人生ってやつ。

圭介 そんなに？

美玲 冗談だよ、例えばの話。

圭介 例えばになってないですけど。あ、美玲さん、会社で大変な

美玲

圭介

美玲

圭介

美玲

圭介

美玲

圭介

美玲

圭介

美玲

圭介

んでしょ？ その部長、ぶん殴ってやりたいですよ。

部長？

何ですか！ この前、智美さんと話してたじゃないですか。

ああ、聞いてたんだ。

すっかり聞いてましたよ。

……ねえ、圭介。嘘って、吐いていい嘘と、吐いちゃダメな

嘘って、どう違うんだろう？

変な事、聞かないでくださいよ。そうですわねえ……。やっぱ

り、人を騙して何かを奪うとか、迷惑掛かるとかの嘘は良く

ないけど……。

吐いてもいい嘘は？

んー。その人の為を思って吐く嘘、ほら、嘘も方便って言う

じゃないですか。

嘘吐く事は良くないけど、時と場合によっては嘘を吐いても

良いって事で、決して嘘を肯定してる訳じゃないんだよね。

まあ、そうですね……。

自分でもわかってただけ……。

……。

美玲 何か嫌だね。嘘吐く人って。

圭介 どうしたんですか、何か美玲さんが嘘ばかり吐いてるみたい

じゃないですか。

美玲 全部嘘だったらどうする？

圭介 全部？

美玲 そう、私の事、全部。

圭介 ……こ、怖い事、言わないでくださいよ。

美玲 冗談だよ。(立ち上がり) じゃあね、さぼってないで仕事し

なよ。(去る)

圭介 美玲さん、どうしたんだろう。あ！ やっべ、戻らないと！

圭介、去る。

8 居酒屋安吉ミーティング

プロットのパネルの前に皆が集まっている。

美希 では、1から順番にまとめたものを店長に発表してもらいま

美玲
智美
奏美

しよう。
それでいい。
同感ですわ。
同じく。

美希から書類を受け取る圭介。

圭介

わかりました。読むだけでいいんですね。じゃあ、読みますね。売れない劇団を率いる御猿壁……。

美玲

実名？

美希

はい。リアリティありますから。

圭介

えー、率いる御猿壁は、超ベタな恋愛ものばかりを好み、無理やり劇団員に演じさせていた。役者たちは辞めたくて仕方がなかった。

智美

辞めればいいのに。

圭介

しかし、御猿壁の劇団は、破格の給料がもらえたのだ。

奏美

辞めないね。

圭介

ある時、御猿壁が急病で倒れ、病院に運ばれる。

美玲
圭介
奏美
美希
圭介
奏美
圭介

リアルだな。

次回の公演の台本が未完成のまま。

だから続きを書くんだ。

先に言わない。

劇団員は皆で話し合い、演劇を中止にすることに。

展開が違う。

次の日、上演予定だったホールに皆で足を運び、キャンセルという事を伝えるに行く。劇場支配人が、残念がるが、御猿壁が居ないと本番は迎えられないと劇団員たちは伝えた。すると支配人から、「あなた達の公演を楽しみにしているお客様はどう思われるのでしょうかね」と言われる。劇団員たちは口々に、「客なんて付いていない」「あんな芝居喜ぶ人はいない」「お金の無駄遣いだよ」と言ったその時、支配人は「あなた達はそれでも役者ですか、あなた達が演じるからこそ御猿壁先生の脚本が生きてくのではないのですか。そんなあなた達が見たい一心でお客様はチケットを買って見てくれるのではないのですか。あなた達の劇団には魅力があるんですよ」劇団員たちは悩んだ。支配人は絶対どこかの劇団と勘違

智美

美玲

圭介

美玲

智美

美希

圭介

奏美
美玲

いしているに決まっている。続けて支配人が言った。「御猿壁先生の為に、今回は私共のホールの主催公演と言う事にしましょう」劇団員たちは驚く。

なんだか面白くなってきたわ。

そう？ 強引過ぎる気もするけど。

劇団員の一人が支配人に聞く。「ギャラは出るんですか？」
「勿論です。一人に付き1公演10万円」劇団員は一斉に「やります！」と答える。現金なやつらであった。

金か。

お金に勝るものはないですわ。

私もそう思います。

と言う事で、劇団員は台本の続きを書こうと、中途半端な台本を読んでみた。台本に描かれた物語は劇団員の予想を遥かに超えた素晴らしいものだった。一人が言う「こんな台本今まで読んだことがないぜ！」もう一人が答える「そりやそうだろう、未発表の台本なんだから」そして……。

あおう！もうだいたい説明わかったんで、書きませんか？私もそう思う。専門的な事、わかんないんだから、とりあえ

智美
美希

ず書いて来るから、美希ちゃん、まとめて直してよ。
賛成よ、美希ちゃんお願いね。
出来るとこまでやってみます。皆さん、メールでもラインでも良いので書いたら私に送ってください。

美玲、智美、奏美、書類を持って出て行く。

圭介
美希
圭介
美希
圭介
美希

美希ちゃん、脚本とか興味あったんだ。
脚本っていうか、先生の事が好きなんです。
(動揺する) え、え、え、え、御猿？
何て言うか、大人の魅力？ っていうか、素敵でしょ？
す、す、す、素敵かなあ……。
寡黙で、男らしい。
美希ちゃん、もっと若い男の方が良いと思うよ、俺みたいな
……。

美希、パソコンに夢中。

圭介 聞いてない……。美希ちゃん！

美希 はい。

圭介 あ、あの、御猿壁三郎先生は止めた方が良いと思うよ。

美希 何故でしょう？

圭介 な、何故って……。あ！ 病気！ 病気持ちなの、内緒だけ
ど。

美希 運ばれたので知ってます。

圭介 あーそうだった、いや、心の病！ 心がやばいの。

美希 心？ どういう風に？

圭介 へ、へ、変態なのだ。あ、なのだって言わない……。
変態？

圭介 と、と、とにかく、止めた方が良い。もつと周り見てごらん
よ。

周りを見る美希。

圭介 今じゃない、いつも、常にとって事。
美希 わかりました、そうしてみます。

圭介　　そ、そう、良かった。やっぱり、若い人は若い人と付き合う

べきなんだよ……。

美希　　（パソコンを片付け）店長、そろそろ失礼しても良いですか？

圭介　　帰る？

美希　　時給発生してるので、ご迷惑かと。

圭介　　え、タイムカード押したの？　今日は出勤日じゃないんだと

思うけど……。

美希　　お店に入ったら出勤ですよ。呼ばれたし。

圭介　　そうだね……。あ、じゃあもう帰っていいよ。

美希　　じゃあ、お疲れ様でした。

美希、去って行く。

圭介　　はあ、胸が苦しい……。これが恋煩いっていうものなのか……。

割を閉める圭介。

9 それぞれの執筆

書いては送る、悩んで書く、などのほのぼのとした執筆パフォーマンス。

割りが開くと美希がパソコンでまとめている。全員が一つにまとまった感を見せ、暗転。

10 居酒屋安吉

圭介が開店準備をしている。
奏美が現れる。

圭介 いらっしやい。あれ、集会は明日じゃなかった？
奏美 来ちゃ悪い？
圭介 いえいえ、大歓迎ですよ！ どうぞどうぞ。

奏美、定位置に座る。

圭介　いつもので。
奏美　今日は、飲もつかな。
圭介　え？　何を？
奏美　お酒。
圭介　奏美ちゃん、お酒飲めるの？
奏美　当たり前。
圭介　そうだったんだ。奏美ちゃんって幾つだっけ？
奏美　レディに歳を聞くと、デリカシー無さ過ぎ。
圭介　失礼しました。
奏美　25なんだけど。
圭介　いやあ、若く見えるなあ。僕より年上には見えない。
奏美　馬鹿にしてる？
圭介　そんな訳無いですよ！　若く見えたほうが良いでしょ？
奏美　そんなもんかね。日本酒、熱燗で。
圭介　渋いねえ。日本酒飲めるんだ。熱燗一丁！
奏美　誰に言ってるの。
圭介　居酒屋だから賑やかなほうがいいでしょ？
奏美　空しいよ。

圭介
ストレートだねえ。(カウンターへ)

奏美、携帯ゲームをしようとするが止める。

圭介
奏美ちゃんってさあ、就職活動やってるんでしょ？

奏美
まあ……。

圭介
何かやりたい事とかって決めてるの？

奏美
……決めてはない。

圭介
やりたい事はあるんだ。

奏美
……。

圭介
俺さあ、ここだけの話、政治家になろうと思ってんだ。

奏美
くたばれ。

圭介
冗談だけだ。

奏美
本気だったら殺す。

圭介
奏美ちゃん、そんなキャラだった？ まあ、そんな事はい

いとして、本当は動物を保護する施設を作りたいんだ。

奏美
動物好きなんだ。

圭介
好きというか、どちらかと言えば嫌いなんだけど……。

奏美

圭介

奏美

圭介

……帰る。

ちよっ！ 冗談冗談！ 何か、飼われてたペットが捨てられて繁殖して、保健所で処分されるって、何か切なくってさ。確かにそうだね。

今に始まった事ではないんだけど、何か出来ないかなってずっと思ってるんだ。

熱爛を運ぶ圭介。

奏美

圭介

奏美

圭介

奏美

圭介

奏美

圭介

奏美

他人事だもん、関係ない人には。

だよね。あ、どうぞ。(お酒を注ぐ)

(飲む)ふはーっ、美味い。

いける口ですね。

私さあ、対人恐怖症なんだ。

え？ 何？ 対人恐怖症って、あり得ないでしょ？

人の目が見れないの。

見てるでしょ？

この人達は慣れた。って言うか、この人達としか話せな

圭介 いんだ。
圭介 全然知らなかった。そんな病気だったんだ。
奏美 ……病気、じゃないんだけどね。トラウマ的なやつ。
圭介 どう言う事？
奏美 自分次第って事。
圭介 切っ掛けって？
奏美 ……（笑う） ……いじめ。
圭介 いじめ ……。いつ頃？
奏美 小学校4年 ……。
圭介 4年生？
奏美 から、高校1年まで。
圭介 そう ……。あー、でも、高1で終わったんだ。
奏美 高校中退です！ （笑顔で敬礼する）
圭介 ……。
奏美 良いよ。同情なんてしなくって。いじめってさあ、いじめられる方にも問題あるんだって。
圭介 そうかも知れないけど ……。
奏美 そうなんだ！ 店長もそう思ってるんだ！

圭介

いや……。

奏美

いじめの方が悪いに決まってるでしょ！ 弱い者いじめだ

圭介

よ、強い奴が弱い人間を痛めつけるんだよ……。

奏美

……。

圭介

わかった風に言わないで。

奏美

ごめん……。そっか……。皆それぞれ、悩みを抱えながら生

圭介

きてるって事だよ。俺なんか……。

奏美

（酔っている）店長も飲め！

圭介

え？ もう酔ったの？ やばいんじや……。

奏美

お前、あたしの酒が飲めないって言うの？

圭介

いえ、飲みます！ 御猪口持ってきます！

御猪口を取りに行く圭介。

奏美

早くしろよ！

圭介

（帰って来て）はいはいいただきます。

奏美、注ぐ。

奏美

飲め！

圭介

飲む！（御猪口を空ける）

奏美

まあまあ、もう一杯。

圭介

どうもどうも。（注いでもらい、奏美にも注ぐ）まあまあ、

奏美

どうぞどうぞ。では改めて、乾杯！

圭介

乾杯！ って何に乾杯何だよ！

奏美

奏美さん、飲むと面倒な人？

奏美

お前よりましたよ！

美玲、智美がやって来る。

智美

あら、二人で飲んでるの？

奏美

あ、智美さんに美玲さん！ 飲みましょう！（二人に抱き着

く）

美玲

え、奏美ちゃん、飲んでるの？

智美

相当飲んだみたいだわ。

美玲

店長、飲ませ過ぎじゃないの！

圭介　しよんなに飲んでましえんって。
智美　店長もベロベロじゃない。
美玲　いくら客が来ないからって……。

美希がやって来る。

美希　お疲れ様です。あれ？　あ、店長、飲んじやつてる。
美玲　この二人、完全に出来上がってるよ。
美希　暖簾降ろしてきます。

美希、一旦捌ける。

圭介　皆さん、お揃いでどうされたんですか？
奏美　されたんでしゅかあ？
美玲　一段落したから、飲みに来たの。あんたもでしょ？
奏美　そうなんれすけど……。あれ、酔っちゃった。

奏美、ふらふらと隅に行き、横になる。

智美

ちよつと大丈夫？

美希、帰って来る。

奏美に気付き、袖から毛布を出し、掛けてやる。

圭介

俺も酔っちゃったみたい……（ふらふらと出て行く）

智美

店長、どこ行くの？

美希

大丈夫です、いつもこうですから。酔いが冷めたら帰ってきますよ。

美玲

あそこまで飲まなくても。

美希

一口しか飲んでないと思いますよ。

智美

そうなの？

美希

超弱いんで。皆さんの執筆したものままりましたよ。

美玲

早いね。

智美

どうだった？

美希

結構、面白くなったと思います。

智美

結局、支配人の勘違いで無しになりかけた企画をもう一度脚本を書き直して、支配人に認めてもらうんでしょ？

美希
美玲

そうですね。

でも、公演の契約後、稽古に入る前に御猿壁が台本をすり替えて、認められた脚本を先に発表されちゃうって、ドタバタコメディで、次回に続くって話。素人の私達にしちやよく出来てるんじゃない？

美希

ですね。こうなったら、早く完成させて、知り合いの劇団に上演してもらおうかな。

智美

それいいね、うん、それ、絶対いい！

美希、立ち上がる。

美希

あもう！

美玲

どうしたの？

美希

この脚本で、デビューしたいんです。

智美

デビュー？

奏美がむくりと起き上がり、美希の目の前に立つ。

奏美 応援する。
美玲 聞いてたの？
智美 酔ってたんじゃない……。
奏美 応援するよ。ね、みんなも応援しようよ。

美玲と智美、顔を見合わせる。
圭介、入って来る。

圭介 俺も応援するよ！

圭介、拍手する。
つられてみんなも拍手。

美希 ありがとうございます。ずっと悩んでたんです。こんなクソみたいなバイト、早く辞めて御猿壁先生のようになりたいて。

圭介 美希ちゃん、今、何て？
美希 御猿壁先生に弟子入りしようと思って、結構、ストーカーの

美玲 美玲
美希 美希
美玲 美玲
美希 美希
智美 智美
皆 皆
圭介 圭介
美希 美希
美玲 美玲
美希 美希
圭介 圭介
奏美 奏美
美希 美希
奏美 奏美

ように付きまといていたんですが、良く調べると御猿壁先生の劇団員は、違うジャンルのお芝居がしたいって仰ってます。状況がよく分からないんだけど。あなた、ストーリーカーなの？

そう言う時期もありました。

劇団員と仲良くなっただ。

そんな感じですか。

で、美希ちゃんが書いてあげるって言ったとか？

そう、その通り！ 御猿壁先生の代わりに書いてくれって言われて。だから、飲み物に毒を入れたんです。

えー！

な、な、な、なんて事を！

嘘です。毒は入れてません。下剤を少々。

あんた、やばいよ。

真剣だったんです！

いくら真剣だったと言ってもねえ。

でも、応援する！

ありがとう奏美ちゃん！

その代わりに、智也くん紹介して。

智美 智也くん？ 誰それ。
美玲 また、ややこしい展開だよ。
美希 劇団員の一人です。……わかった、紹介する。
圭介 何かよくわからんぞ。
美希 いいんです、いいんです。とにかく、今回書いた台本で、お芝居をするって事で皆さんの承諾が欲しかったです。

それぞれ頷く。

圭介 御猿壁三郎先生は下剤を飲んで入院してるって事？
美希 いえ、運悪く盲腸になったそうです。病院で聞いてきました。
美玲 何か美希ちゃんって、恐ろしい……。
圭介 ま、まあ、えーと、美希ちゃん、改めて聞くけど、この、クソみたいなバイトは辞めるのかな？
美希 クソみたいだなんて、素敵なバイトですよ、ここのバイトは。
圭介 よく言うよ、クソみたいって……。
美玲 店長の聞き間違えよ、きつと。クソみたいって。
智美 そうそう、飲んでたし。クソだった。

奏美 そうだよ、聞き間違いだね。クソくらえだよ。

圭介 そんなにクソクソ言わないで……。

美希 店長、暫くは続けさせてください。あ、そろそろ帰りますね。

圭介 え、まだいいじゃん。皆さんも何も飲まずに。

美希 いや、でも時給が発生してるので。

圭介 また、タイムカード押したの？

美玲 焼肉行く？

奏美 肉、肉！

智美 美味しい焼き肉のお店、駅前に来たんですって。

美希 そこ行きましょう！

圭介 折角なんで、うちで飲みましょうよ。ねえ、皆さん。

皆、去って行く。

圭介 何なの俺の存在って……。

カウンターに座り、お酒を飲む。

暗転、割閉め。

1 1 御猿壁の妖しい動き

御猿壁三郎、歩いている。
携帯が鳴る。

御猿壁 そうだねえ……。そうだねえ？ そうだねえ！

電話を切り、掛け直す。

御猿壁 そうだねえ！

走り去る御猿壁。

1 2 居酒屋安吉

美希が台本を持って入って来る。

美希

店長！

店長！ あれ？ 店長？ 不用心だなあ。

テーブルに台本とパソコンを置いて座る。
外で物音がする。

美希

店長？

美希、物音がした方へ去る。

入れ替わりに御猿壁が入って来る。

テーブルの上の台本に気付き、速読する。

お腹を抱えて変な笑い。

カバンから別の台本を出し、入れ替え、パソコン

も入れて立ち去る

御猿壁。

美希、戻って来る、圭介も戻って来る。

美玲、智美、奏美入って来る。

美玲

完成だね。

真っ直ぐ愛して。

智美 劇団員の人達も来るんですって？
奏美 智也くん、紹介してよね。
圭介 乾杯の準備しますね。

美希、何気なく台本を見る。

美希 あれ？ パソコンが無い……。 (台本を手に取りページを捲る) はあ？

暗転閉め。

「数日後……」の文字のパネル。

13 居酒屋安吉

定位置で飲んでいる。

美希は御猿壁の席でパソコンをしている。

新聞を読んでいた圭介が

圭介 えー！

美玲

美希

圭介

智美

何？

何ですか？

（新聞を見せる）これ！

（読む）御猿壁三郎、受賞？ ブロードウェイで旋風を巻き起こしているコメデイ演劇の脚本賞で、日本人初の受賞となる。日本で活躍していたという自称、芥川賞候補作家の御猿壁三郎氏がこの度、最優秀賞を受賞、賞金5千万ドルを獲得した。日本人では取れないとされていたこの賞だが、御猿壁氏はその壁を乗り越え快挙を成し遂げた。作品タイトルは

「真っ直ぐ愛して」

は？ 5千万ドル？ 幾らなの？

日本円で、5億6千万くらいかと。

えー！

美玲
奏美
皆

郵便が届く。

郵便

郵便です！

圭介、受け取る。

圭介
美玲
（封筒を見て）御猿壁三郎先生からだ！
開けて！

圭介、開ける。
中から、手紙と5万円。

圭介
智美
5万円……。 （手紙を読む） そうだねえ。
そうだねえしか書いてないんじゃないの？

圭介
祝杯でも挙げてくれたまえ。 そうだねえ。 御猿壁グレート三郎より。

美玲
智美
何がグレートよ。 ふざけるのもいい加減にして欲しいよ。
何て人なの。 ろくでなしだわ。
盗作だよ、最悪だ。

美希
奏美
（笑いだす） 先生、最高……。
美希ちゃんが可笑しくなった。

美希 圭介 智美 美玲 奏美 圭介 美希 圭介 美希 皆 圭介 美希 美希 奏美 美玲 圭介 智美 圭介 美希 美玲 奏美 美希 圭介

ごめんなさい、可笑しくて……。

俺の、俺の御猿壁三郎先生が……。

どうしたの店長。

何でもないです。何でもないんですが……。

何よ、酷い顔になってるわよ。

店ちまで可笑しくなった？

僕は、僕はただ……。

店長、カミングアウトすれば？

な、な、な、何を言ってるの？

ゲイなんですよね、店長は。

えー！

何でわかるのよ？

そうじゃないかなあって、ずっと思ってたんですけど、私が

先生が好きだって言った時、確信したんです。

美希ちゃん、御猿壁が好きなの？

地球が爆発してもあり得ないです。

表現がわかり辛い。

圭介がゲイねえ。

美希 店長は先生の事を愛してるのがよくわかったんです。
圭介 あ、あ、あ、愛してるって……。いいじゃない！

カウンターに入ってしまった圭介。

美玲 良いんじゃないの、個性的で。

智美 人それぞれ違うのが個性。

奏美 個性か。

美玲 そう、皆それぞれの思いがあっていいじゃん。

美希 そうですよ、個性は主張しないとね。

美玲 それに、皆気付いてた？ 私達の名前、皆、美しいって字が入ってるの。

美希 美しい……。私は美希の美。

奏美 本当だ！ 奏美の美。

智美 私は智美の美だわ。偶然でも嬉しいな。

美玲 そして私は美玲の美。美しいって、色んな形があるって事ですよ。

智美 良い事仰るのね。

圭介

僕には無い……。

美希、携帯が鳴り、一旦捌け、前側の袖から電話しながら出てくる。

美希

先生、おめでとうございます大成功です。先生の読みは大したものです。美しく完結しました。明日の便でロスに向かいます。では。(電話を切り、振り向く)

奏美が立っている。

奏美

……ほう。

美希

いつから居たの？

奏美

今来たところだけど、何かまずかった？

美希

ううん。聞いてたの？

奏美

何も。(ニヤリとして去る)

美希

奏美ちゃん！

奏美を追いかける美希。

智美

何だかんだ言っても、私達の作品が評価されたって事、嬉しいかい？ 真っ直ぐ愛して、かあ。

美玲

悔しいからナナメに生きてやる。

智美

ナナメか……。

奏美、美希戻って来る。

奏美

いいね、ナナメ。

美希

皆、ナナメなんだよ。

奏美

皆かなあ。

智美

どうしたの、奏美ちゃん。

奏美

いいえ。……何か、夢が出来たの。

美玲

夢？ どんな？

奏美

私、アメリカ行こうと思う。夢を掴みに。(美希を見る)

美希

そう……。いいんじゃないかな。

奏美

ありがとう。

美希
智美
奏美
圭介
美玲
美希
智美
美玲

どういたしまして。

いきなり海外で働くの？ 英語は？

何とでもなる気がしてきたので。(笑う)

頑張って、奏美ちゃん！

私達も頑張んなきゃ。

私も頑張って次の作品書きますか。

いつでもモデルになってあげるわよ。

そうよ。私達、ナナメな奴らなんで。

宴会が盛り上がっていく。

楽しそうな会話の中、スーツケースを引きながら店を出て行く美玲。

音楽と共に明かりが消えていく。

終